

柱島港（山口県岩国市）

●地域の特徴

柱島は、面積3.13平方キロメートル、岩国港の南東約26kmの海上に浮かぶ離島である。一帯は広島湾南西部の瀬戸内海国立公園の区域に指定され、豊かな藻場に恵まれている。主な産業は漁業と小規模農業である。

●取組に至った背景

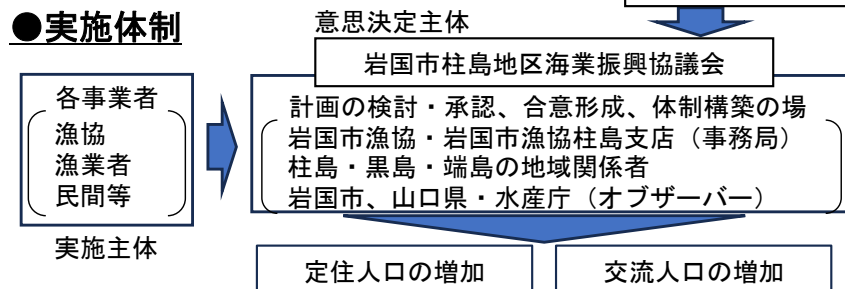
平成年代の柱島は、本土に活魚・鮮魚を出荷し、島の自然と美味しい魚を楽しむ訪問者でにぎわう島であった。現在は人口減少と高齢化による担い手不足や離島特有の輸送コストの高さにより、漁業と交流の活力が低下しており、地域漁業の活性化と新たな収入源の確保が求められている。一方、寒ひじきなどの地域産品は評価されており、近年は新たにカキ養殖にも取り組んでいる。このため、海藻やカキ、豊かな自然環境などの地域資源を活用した海業の検討を進めた。

●取組の概要

- ・活用類型：体験、飲食、釣り・マリンレジャー
- ・立地特性：離島、地方・過疎地
- ・施設の状況：既存の港湾用地を活用
- ・活用施設：物揚場、荷捌き場、泊地
- ・取組内容：従来からの強みである海藻と島の新たな取組であるカキ養殖を核に、「仕事づくり」と「来島する目的づくり」を進め、体験プログラムの創出やプレジャーボート受入れを通じて交流人口の拡大を図る。

港湾管理者（岩国市）

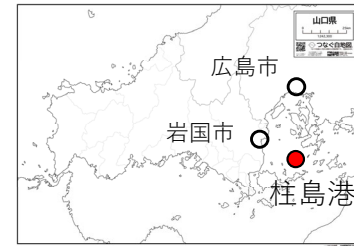
●実施体制



●港湾施設の利活用の概要

- ・港湾管理者：岩国市
- ・事業目的：交流促進
- ・事業概要：既存の港湾用地を活用し、プレジャーボート等の受入れを行うとともに、海藻・カキを核とした漁業体験や販売等の交流促進事業を展開し、交流人口の拡大と地域活性化を図る。（港湾施設の占用・貸付）

位置図



期待される成果・効果

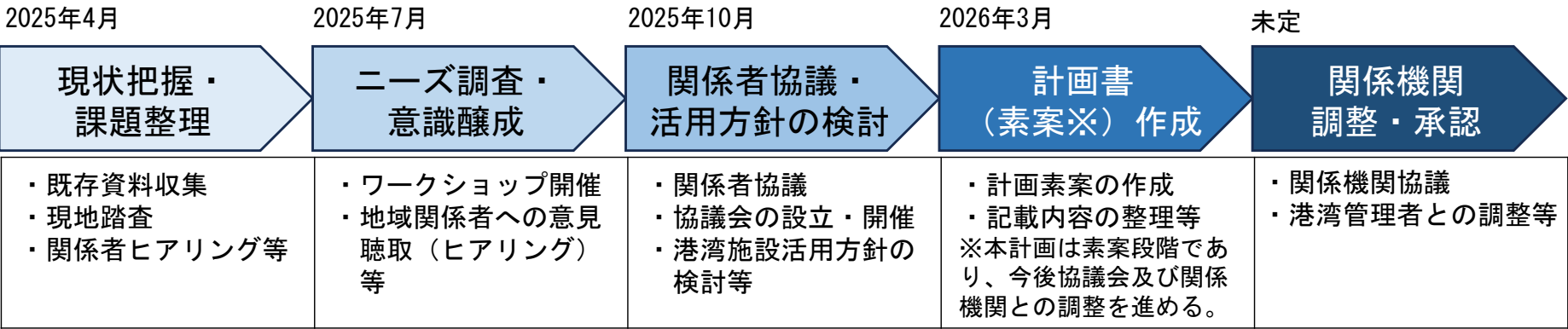
- 定量的効果：プレジャーボート等による来島者数の増加、体験プログラム参加者数の増加、海藻・カキの生産量及び販売額の増加、漁業者の所得向上及び担い手の確保
- 定性的効果：関係人口の増加・地域資源の認知度向上、地域コミュニティの活性化

柱島港（山口県岩国市）

●活用推進計画策定のプロセス

●参考情報

- ・参考にした資料：水産庁「海業の推進について」
ビジター棧橋整備事例（水産庁資料）、他
- ・参考にした事例：宮城県気仙沼市「カキ養殖体験ツアー」
山形県鶴岡市由良「海上釣り堀」、他



港湾施設を海業に活用させるための基本的な方針等を整理した。

●合意形成・関係者調整

- ・関係者の範囲：岩国市漁協、岩国市漁協柱島支店、地域関係者（柱島・端島・黒島）、行政関係者（岩国市・山口県）
- ・調整のために行ったこと：ヒアリングやワークショップを通じて、地域課題や将来像を整理し、協議会を設立して継続的な協議体制を構築した。また、港湾管理者との協議を通じて海業の実現可能性を検討した。
- ・調整の成果：地域関係者間で「仕事をつくる」「来島する目的をつくる」を基本方向として共有し、活用推進計画素案の作成に至った。

●課題（原因分析を含む）及び今後の対応方針

- ・高齢化と人口減少により、海業を担う人材や来島者の受入体制が不足している。
- ・食事や宿泊などの滞在環境が十分でなく、交流事業の展開に制約がある。
- ・港湾区域であるため、事業化に向けて施設整備や運営に関して港湾管理者との調整が必要である。
- ・今後の展開：
 - ・海藻関連産業及びカキ養殖の拡大により、仕事づくりと定住人口の増加を図る。
 - ・体験プログラムやゲストバース整備により、来島する目的を創出し交流人口の拡大を図る。
 - ・担い手の確保状況に応じて受入体制を段階的に整備し、中長期的に事業内容を拡充する。

●他の漁港（港湾）管理者へのアドバイス

- ・計画策定前に、地域の実情や担い手の状況を丁寧に把握することが重要である。
- ・離島や小規模地域では、一度に大規模な事業を目指すのではなく、既存の取組を活かした小さな成功事例を積み重ねることが有効である。
- ・合意形成や公的補助金・交付金の活用に向けた関係機関との調整には時間を要するため、早い段階から協議を開始することが望ましい。